

3.2.7 貴重な動物

今回の調査では、表 3-2-9 に示す法律や、環境省発行のレッドデータブックなどに掲載されている貴重な動物の生息有無についても調べました。

その結果、表 3-2-10 に示す鳥類 4 科 6 種、は虫類 1 科 1 種、魚類 2 科 2 種の貴重種が確認されました。また、調査対象ではありませんでしたが、水生昆虫類調査時に 1 科 1 種の貝類の貴重種が確認されました。

表 3-2-9 動物貴重種基準

資料名	発行元等	発行年等	概要
絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律(種の保存法)	-	1992	希少野生動植物種の指定、個体等の取り扱いに関する規制、譲渡等の禁止、生息地等の保護に関する規制等を定めている。
文化財保護法	-	1950 (改正改称)	国指定の特別天然記念物・天然記念物を定めている。
改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 1 哺乳類	環境省 編	2002	絶滅のおそれのある野生生物の個々の種の生息状況をまとめた資料。
改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 2 鳥類	環境省 編	2002	絶滅のおそれの程度等によって、「絶滅 (EX)」、「野生絶滅 (EW)」、「絶滅危惧 類 (A 類・B 類: CR・EN)」、「絶滅危惧 類 (VU)」、「準絶滅危惧 (NT)」、「情報不足 (DO)」の 6 ランクと、「絶滅のおそれのある地域個体群」に分けられている。
改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 3 爬虫類・両生類	環境庁 編	2000	1991 年に環境庁により動物版のレッドデータブックが作成された。その後改訂作業が行われ、現在、哺乳類・鳥類・は虫類・両生類の改訂版が出版されている。
環境庁報道発表資料 汽水・淡水魚類のレッドリストの見直しについて	環境庁	1999	
環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて	環境庁	2000	

表 3-2-10 動物貴重種一覧

項目	科名	種名	選定基準	減少している要因	確認状況概要
鳥類	サギ	チュウサギ	準絶滅危惧	農薬汚染、宅地開発による営巣林の伐採など	初夏の調査で、低地の水田で採餌する個体を確認。 秋季の調査で、低地の水田で採餌する個体を確認。
	タカ	ミサゴ	準絶滅危惧	河川開発、レジャー活動による営巣地攪乱など	初夏の調査で、池上空で餌を探しながら飛行する個体を確認。 冬季・秋季の調査で、河川上空で餌を探しながら飛行する個体を確認。
		オオタカ	国内希少野生動物種絶滅危惧類	低山地の開発、写真撮影による繁殖攪乱など	春季の調査で、箱根西麓の耕作地で、カラスに追われながら飛行する個体を確認。 冬季・春季の調査で、低地の池周辺で飛行する個体を確認。 秋季の調査で、河川敷で狩猟行動をする個体を確認。
		ハイタカ	準絶滅危惧	森林伐採、自然林の減少など	冬季の調査で、箱根西麓の耕作地で狩猟行動をする個体を確認。
	シギ	オオジシギ	準絶滅危惧	草原・湿原の減少など	春～夏季の調査で、箱根稜線の牧草地で、繁殖期独特の飛翔を行う個体を確認。
	サンショウクイ	サンショウクイ	絶滅危惧類	森林伐採、東南アジアの生息環境悪化など	箱根西麓下部の落葉広葉樹林内で、採餌する個体を確認。
は虫類	スッポン	スッポン	情報不足	-	低地の河川と池沼の2ヶ所で成体を確認。産卵地と思われる場所も確認。
魚類	ドジョウ	ホトケドジョウ	絶滅危惧B類	圃場整備など	山際の水田脇水路と、湧水が豊富な河川の2ヶ所で合計6個体を確認。
	メダカ	メダカ	絶滅危惧類	圃場整備など	低地の河川及び池の2ヶ所で確認。
貝類	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ	準絶滅危惧	-	低地の湧水が豊富な池で、水際に生育する植物の根元についた1個体を確認。

注)いずれの種も、環境省発行のレッドデータブック或いはレッドリストに載っている種です。

鳥類

チュウサギ



全長 63～72cm で、白いサギの中で最もよく見られるコサギより一回り大きい白いサギです。主に夏鳥として日本に渡来します。湿地や草地で魚、カエル、甲殻類などを捕まえて餌としています。

ミサゴ



全長 54～64cm、翼を広げたときの幅が 155～175cm で、体の下面が白っぽい猛禽類です。猛禽類にしては珍しく魚を主な餌としているので、大きな河川や池沼上空で餌を探している光景がよく見られます。

【写真：茨城県自然博物館提供】

オオタカ



全長 50～57cm、翼を広げたときの幅が 106～131cm で、低地から亜高山帯の森林等に生息する森林性のタカです。ハト類、カモ類等の鳥類を主な餌にしています。一年中見られる留鳥ですが、冬季に多く見られる傾向があります。

【写真：札幌円山動物園提供】

ハイタカ



全長 32～39cm、翼を広げたときの幅が 62～76cm の猛禽類です。県内では冬季に多く見られます。ツグミ等の中～小型の鳥類や、ネズミ類、リスなどを捕まえて餌にしています。

【写真：札幌円山動物園提供】

オオジシギ



全長 30cm 程度のシギの仲間、夏鳥として日本に渡来します。草原や牧場、湿地等で繁殖し、ミミズや昆虫類、植物の種子などを餌にしています。繁殖期には大きな音を立てて空中ディスプレイを見せることがあります。

【写真:安藤正治氏提供】

サンショウクイ



全長 20cm 程度の大きさで、夏鳥として日本に渡来します。昆虫類やクモなどを餌としています。「ヒーリーリ・ヒーリーリ」と鳴くことから、サンショウクイの名前がつけました。

【写真:牧野竹雄氏提供】

は虫類

スッポン



甲羅の長さ 15 ~ 25cm、背面はやや緑色を帯びた灰褐色で、体表は柔らかい皮膚で覆われています。4月に活動をはじめ、産卵は5月下旬頃から8月にかけて水場から少し離れたきめの細かい土壌に穴を掘って行います。

【写真:丸山健一郎氏提供・奈良教育大学自然環境教育センターのホームページより】

魚類

ホトケドジョウ



全長約 6cm のドジョウの一種で日本固有⁽³²⁾の種です。主に他の魚があまり生息していない流れの緩やかな細流、小川などに生息しています。浮遊性あるいは底生性の小動物を餌にしています。

【撮影：2002/7/18 佐野】

メダカ



全長は最大で 4cm ほどになります。低地の小川を代表する魚類でしたが、土地開発や農地整備にともなう河川改修等によって生息数が減少してきています。プランクトンや小さな落下昆虫などを食べる雑食性です。

【撮影：2002/5/19 御園】

貝類

ナガオカモノアラガイ



貝の高さが 8mm 程で、貝殻の口がとても大きな貝です。殻は薄質で細長く、殻表面の色は淡い黄褐色で半透明です。湖沼・農業用水路等の水際に生息し、草やコンクリート壁に付着しています。県内の広い範囲に分布しています。

【撮影：2002/8/2 清住緑地】

なお、現地調査で確認された種以外に、過去に三島市内で記録がある貴重な動物として、表3-2-11にあげた種があります。このうち、鳥類のミゾゴイとハヤブサは、後で述べる野鳥の会の調査で確認されています。また、昆虫類のギンイチモンジセセリとツマグロキチョウは、地元のチョウ類研究者から、「今でも市内で見かける」との情報が得られているので、今でも三島市内に生息しているようです。

その他の種については現在の生息状況は不明ですが、昆虫類のチャマダラセセリ・ウラナミジャノメなどは、「三島市内には生息していないかもしれない」との情報が得られています。

表3-2-11 現地調査未確認の動物貴重種一覧

項目	目名	科名	種名	選定基準	減少の要因
鳥類	コウノトリ	サギ	ミゾゴイ	準絶滅危惧	不明
	タカ	タカ	ハチクマ	準絶滅危惧	不明
		ハヤブサ	ハヤブサ	絶滅危惧 類	開発行為による繁殖地(崖面)の消失・餌条件の悪化等
	キジ	キジ	ウズラ	情報不足	不明
	チドリ	コアジサシ	コアジサシ	絶滅危惧 類	繁殖地(河川敷・砂浜)の攪乱等
	スズメ	ホオジロ	ノジコ	準絶滅危惧	不明
昆虫類	バッタ	コオロギ	オオオカメコオロギ	準絶滅危惧	不明
	ハエ	カバエ	ハマダラハルカ	準絶滅危惧	不明
	チョウ	セセリチョウ	チャマダラセセリ	絶滅危惧 類	開発や植生遷移等に伴う生息地となる草原等の減少
			ギンイチモンジセセリ	準絶滅危惧	開発や植生遷移等に伴う生息地となる草原等の減少
		シロチョウ	ツマグロキチョウ	準絶滅危惧	不明
		シジミチョウ	クロシジミ	準絶滅危惧	開発や植生変化等に伴う生息地の減少
			シルビアシジミ	絶滅危惧 類	河川堤防の改修等に伴う生息環境の減少、餌となるミヤコグサの生育環境悪化
ジャノメチョウ	ウラナミジャノメ	絶滅危惧 類	雑木林の管理形態の変化等に伴う生息に適した環境の減少		

注)いずれの種も、環境省発行のレッドデータブック或いはレッドリストに載っている種です。

鳥類

ミゾゴイ



全長 49cm 程のサギの仲間です。夏鳥として本州～九州の低山に渡来します。繁殖期には「ポオーツ、ポオーツ」という太い声で繰り返し鳴きます。夜行性であり人目に付かないので、詳しい生態や分布・個体数などはほとんど分かっていません。

【写真:佐藤一成氏提供】

コアジサシ



全長 28cm 程の小型のアジサシです。夏鳥として本州以南に渡来し、海岸の砂浜や河川敷で繁殖します。餌は魚で、空中から水中に飛び込んで捕まえます。アウトドアレジャーに伴う海岸・河川敷への立ち入りや開発などにより、繁殖が脅かされています。

【写真:日本野鳥の会京都支部提供】

昆虫類

シルビアシジミ



はねを広げた時の幅が 2.5cm 程のチョウで、春から秋に見られます。幼虫はミヤコグサを特に好み、この草が生えている河川の堤防等明るい草地に発生しますが、発生する場所は局地的です。県内全体でも、生息環境の減少によってほとんど見られなくなっています。

【写真:立岩幸雄氏提供】

ギンイチモンジセセリ



はねを広げた時の幅が 3cm 程のチョウです。春と夏に発生し、春の個体には、名前の由来になっているはっきりとした銀色の帯がはねにあります。幼虫は各所に生育するイネ科の植物(ススキ・ヨシ等)を餌にしますが、本種は局地的に分布します。

【写真:立岩幸雄氏提供】

鳥類

ミゾゴイ



全長 49cm 程のサギの仲間です。夏鳥として本州～九州の低山に渡来します。繁殖期には「ポォーツ、ポォーツ」という太い声で繰り返し鳴きます。夜行性であり人目に付かないので、詳しい生態や分布・個体数などはほとんど分かっていません。

【写真:佐藤一成氏提供】

コアジサシ



全長 28cm 程の小型のアジサシです。夏鳥として本州以南に渡来し、海岸の砂浜や河川敷で繁殖します。餌は魚で、空中から水中に飛び込んで捕まえます。アウトドアレジャーに伴う海岸・河川敷への立ち入りや開発などにより、繁殖が脅かされています。

【写真:日本野鳥の会京都支部提供】

昆虫類

シルビアシジミ



はねを広げた時の幅が 2.5cm 程のチョウで、春から秋に見られます。幼虫はミヤコグサを特に好み、この草が生えている河川の堤防等明るい草地に発生しますが、発生する場所は局地的です。県内全体でも、生息環境の減少によってほとんど見られなくなっています。

【写真:立岩幸雄氏提供】

ギンイチモンジセセリ



はねを広げた時の幅が 3cm 程のチョウです。春と夏に発生し、春の個体には、名前の由来になっているはっきりとした銀色の帯がはねにあります。幼虫は各所に生育するイネ科の植物(ススキ・ヨシ等)を餌にしますが、本種は局地的に分布します。

【写真:立岩幸雄氏提供】